

教員養成の修士レベル化の方向性(案)

	教職大学院 (25大学、入学定員815名 (H24年度))	教員養成系大学の修士課程 (44大学、入学定員3265名 (H24年度))	教職課程を設置した 一般大学の修士課程
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・新人教員養成、スクールリーダー養成の双方においてモデル機能を果たしている ・一方、設置大学数や入学定員の拡充が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場の教員養成のみならず、教育学部等の大学教員の養成も担っている ・学校現場のニーズに十分に答えるカリキュラムになっていない、学生数に対して教員規模が大きいとの指摘あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者養成や民間企業等への就職のほか、学校現場の教員養成も担っている(特に中高) ・専修免許状を取得する際に、学校現場での実践性を備えた教育が十分ではないとの指摘あり
当面の改善方策	<p>教職大学院の質と量の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な養成機能へ転換するため、特別支援教育、教科指導力の育成の導入など教育課程の改善 ・未設置県への設置促進 	<p>「教職実践に関する科目」(仮称)の必修化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習、教職実践研究報告書(仮称)の作成の義務づけ 	
改革の方向性	<p>一般免許状の取得を標準とし、教員養成を修士レベル化</p>		